

見沼ワークショップニュース

～見沼田圃(新都心東地区)の散策環境向上

のためのワークショップ～

第3回目

第3回ワークショップを開催しました

さいたま市では、10月31日(土)に大宮南部浄化センター(みぬま見聞館)において、「見沼田圃(新都心東地区)の散策環境向上のためのワークショップ」の第3回を開催し、約30名の市民の方にご参加いただきました。

このワークショップの目的は、見沼田圃の新都心東地区における散策環境を向上するために、さまざまな課題解決に向けて、市民の皆様・市民団体、自治会の方々为主体となって、なにができるか、どんなことがしたいか、について意見を出し合っていたいただくための場です。

7月4日(土)に行われた第1回では、見沼田圃に関わる方の講義を聞いた後に、各班で日頃感じている課題について話し合いました。9月5日(土)の第2回では、見沼田圃(新都心東地区)を散策し、現状を実際に確認した上で「自分たちにできることは何か」を考えました。

そして今回は、これまで話し合った意見をまとめて各班で資料を作成し、発表を行いました。

意見交換①



意見交換②



【ワークショップの様子】

第2回の散策で確認した現状について振り返りをしたあとに「私たちにできることは何か」「それによって解決できることは何か」を話し合いました。各班からは、数年後の見沼たんぼを見据えた活気のあるご意見が出ました。

共通のキーワードとして出たのが「連携」です。この地域が持っている財産を再認識し、更に、参加者から連携できる具体的な相手先まで提案がありました。

また、「参加者同士も繋がるいい機会になった」というご意見もあり、実り多いワークショップとなりました。



①第3回ワークショップの内容

1. 開会挨拶
2. ワークショップ開催趣旨・概要説明
3. 前回の振り返り
4. 意見まとめ・成果品作成
5. 各班意見発表・質問
6. 閉会

②各班の発表

A班



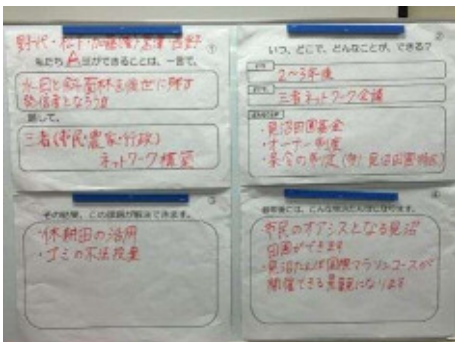
【私たちにできること】

水田と斜面林を後世に残す発信者になろう！

「三者（市民・農家・行政）ネットワーク構築」

【いつ、どこで、どんなことができるか】

- 2～3年後
- 三者ネットワーク会議
- 見沼田圃基金、オーナー制度、条例の制定（例.見沼田圃特区など）



【その結果、解決できる課題】

- 休耕田の活用
- ゴミの不法投棄

【数年後、こんな見沼たんぼになる】

- 市民のオアシスとなる見沼田圃ができる
- 「見沼たんぼ国際マラソン」が開催できる景観になる

B班



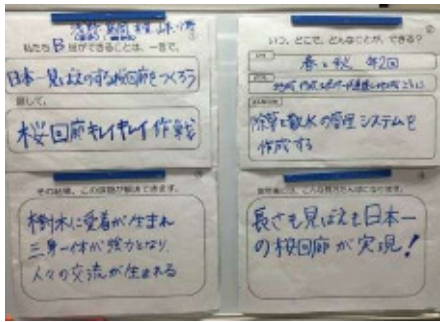
【私たちにできること】

日本一見ばえのする桜回廊をつくろう

「桜回廊キレイキレイ作戦」

【いつ、どこで、どんなことができるか】

- 春と秋 年2回
- 地域、行政、スポンサーが連携し地域ごとに
- 除草と散水の管理システムを作成する



【その結果、解決できる課題】

- 樹木に愛着が生まれ三身一体が強力となり、人々の交流が生まれる

【数年後、こんな見沼たんぼになる】

- 長さも見ばえも日本一の桜回廊が実現！

C班



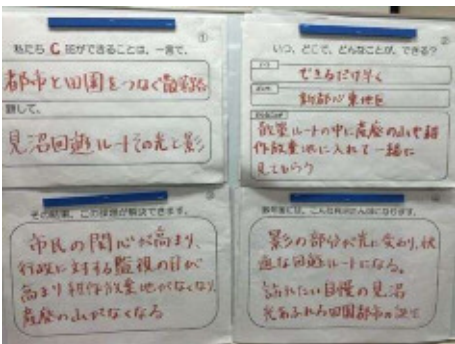
【私たちにできること】

都市と田園をつなぐ散策路

「見沼回遊ルート その光と影」

【いつ、どこで、どんなことができるか】

- できるだけ早く
- 新都心東地区
- 散策ルートの中に産廃の山や耕作放棄地に入れて一緒に見てもらう



【その結果、解決できる課題】

- 市民の関心が高まり、行政に対する監視の目が高まり、耕作放棄地がなくなり、産廃の山がなくなる

【数年後、こんな見沼たんぼになる】

- 影の部分部分が光に変わり、快適な回遊ルートになる。訪れたい自慢の見沼、光あふれる田園都市の誕生

D班



【私たちにできること】

上山口新田の田園景観を守り活用する

31階建てのビル群&水田（上山口新田）取り上げられる地域

「上山口新田ビューティーアップ大作戦」

【いつ、どこで、どんなことができるか】

- 来春までに「案」をまとめる
- 上山口新田で
- 援農活動を推進する
- 良質な安全（無農薬）な米を継続して作る
- 文化的な景観木や景観作物の質を高める



【その結果、解決できる課題】

- 上山口新田のすてきな水田景観を未来に残せる
- 市民の方が無農薬で美味しいお米を食べることができる
- 案内板、トイレ、公園を設置する要請ができる
- 見沼田圃を長く残すことができる

【数年後、こんな見沼たんぼになる】

- 埼玉県の水田景観を代表するビューポイントになる
- 都市景観と稲の見事なコントラストを見に、多くの人が足を運ぶようになる
- 素敵な散策路が造られる

<質問・意見>

- 千葉県の野田などのように、無農薬の農作物に加えて「鳥」も加えたら良い。鶴巻新道の辺りではコウノトリを飼っていた。紀州鷹場だった。
- 幸手の権現堂（サクラ、あじさい、菜の花）もきれいだった。田んぼに花（レンゲソウ等）を見られる場所があったり、茨城県では、コウノトリの飛来のために「冬水田んぼ」を実施したり、そういったものを見沼田圃でも見てみたい。

E 班



【私たちにできること】

見沼の自然は連携して

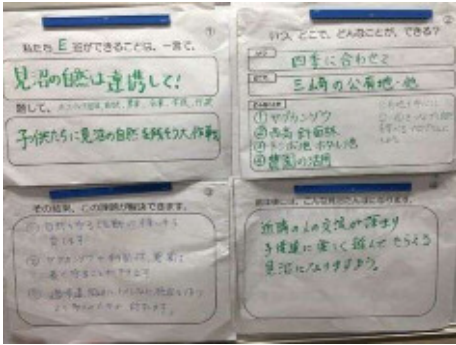
「子どもたちに見沼の自然を残そう大作戦」

【いつ、どこで、どんなことができるか】

- 四季に合わせて
- 三崎の公有地・他
- 公有地を中心に次の①～④をつなげて自然を学べるプログラムにしよう
 - ①ヤブカンゾウ ②西高斜面林
 - ③トンボ池・ホテル池 ④農園の活用

【その結果、解決できる課題】

- 自然を守る活動の担い手を育てる
- ヤブカンゾウや斜面林、農園を長く守ることができる
- 遊歩道周辺にトイレなど施設をつくり、より多くの人々が訪れる



【数年後、こんな見沼たんぼになる】

- 近隣の人の交流が深まり、子ども達に楽しく遊んでもらえる見沼になる

<補足>

三崎の公有地は、水に親しむところが少ない。子どもたちが自然に親しめる水辺が欲しい。

自然に関する活動が進んでいることが分かり、連携が大事。

現状、継続的に自然やその環境に関わるのが難しく、スポット（単発）なので、連携させたプログラムを開発して、学校で実施したら良いというアイデアにつながった。企業、学校、農家、地域との連携という話も出た。

③おわりに

本ワークショップにおいて皆様よりいただいた意見は、平成28年度に予定している次期アクションプラン策定へ向けた貴重な意見として参考にさせていただきます。

今後とも、見沼田圃の政策推進にご協力をいただきます様、よろしくお願いいたします。

集合写真



(お問い合わせ先) さいたま市 都市局 都市計画部 みどり推進課 見沼田圃政策推進室
 電話：048-829-1413 FAX：048-829-1979
 E-mail：minumatambo-seisaku@city.saitama.lg.jp